

報 告

びわこリハビリテーション専門職大学の開設と 専門職大学制度について

中村剛至

| びわこリハビリテーション専門職大学 事務センター長

びわこリハビリテーション専門職大学（以下、「本学」と表記）は、2020（令和2）年4月1日に、前身の滋賀医療技術専門学校（1996（平成8）年4月開学）の施設を引き継ぐ形で開設されました。「びわこ健康科学」の創刊にあたり、本学が開設に至った経緯のあらましと専門職大学制度について簡単に触れさせていただきます。

前身の滋賀医療技術専門学校では、25年にわたって理学療法士と作業療法士（平成18年までは看護師）を養成してきており、理学療法士758名、作業療法士431名が輩出され、その多くが県内で就業しており、滋賀県のリハビリテーション人材育成を担ってきたと言っても過言ではありません。本学の開設にあたっては、この専門学校の伝統（人脈）、資源を最大限に生かし、また滋賀県で唯一、理学療法士および作業療法士の学校養成施設の指定を受けているという社会的責任を認識し、時代が求めているより高度な専門職業人の育成を企図しました。時代が求めている、というのは単に医療人としての知識、技能の高度化だけではなく、本学の目的にも明記している、保健・医療・福祉における地域共生社会の実現に貢献できる人材育成が挙げられます。高齢者、障害者、子どもなど社会的弱者や病者を地域社会全体で支え、それぞれが望む生活を営める共生社会を目指し、リハビリテーション職の立場で共生社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

そうした人材育成上の課題と軌を一にし、新たな高等教育機関である専門職大学制度が2019（平成31）年4月より開始されました。本学は、この制度ができて2年目に認可された専門職大学で、2022年4月時点で、IT情報系、医療系（リハビリテーション）、ファッション、農業、観光・芸術、食文化などの分野で18の専門職大学（内3大学は専門職短期大学）が開設されています。

専門職大学の特徴を簡単にまとめると、以下のようになります。

- ① 専門性を求められる職業（特定職種）に就くことを前提に、実務能力の高い人材を育成する。
- ② 必要な専任教員の4割以上を実務家教員とする。
- ③ 実験・実習・実技の授業科目の40単位以上を卒業要件とする。（学外臨床実習20単位以上を含む）

- ④ 関連する産業界との連携により、教育課程の編成・実施を行う。

最初に掲げた①が専門職大学の目的であり、その目的を達成するために②～④その他これまでの大学設置基準にはない基準や条件が設けられています。④の「関連する産業界との連携」について本学に即して言えば、実習先および就職先である医療機関や福祉施設、滋賀県理学療法士会および作業療法士会などの職能団体、また産業界とは異なるものの地域共生社会の実現に寄与するために滋賀県や地元東近江市など自治体との連携を深めているところです。

本学は、上記の専門職大学制度の理念をもとに、施設のリニューアルを施すとともに教員組織の抜本的な強化を行い、2022年4月時点で3期生の学生を迎えたところです。

最後に、「びわこ健康科学」の発刊に関連し、研究活動について一言申し添えます。既述のとおり、専門職大学の特徴は、専門性の高い特定の職種における実務能力の高い人材を育成することを、その眼目としています。そうした専門職大学にあって期待される研究とはどのようなものでしょうか。文部科学省は、「理論と実践を架橋する高等教育機関として、『実践の理論』を重視した研究が期待される。」（「専門職大学等の設置構想のポイント 平成31年1月」と述べています。少し以前（平成28年）の中央教育審議会答申においても、「新たな機関は、職業・社会における『実践の理論』を重視した研究を志向するものであり、学術上の探求そのものに自己目的化した研究を目指すことが主目的でないことに留意が必要である。」とされており、従来型の大学とはやや一線を画した研究が期待されているようです。もっとも、専門職大学制度が発足して3年しか経過していない現状では、今後どのような研究活動が展開されていくかについてまだ何とも言えないといつていいでしょう。まずは「びわこ健康科学」が、リハビリテーションをはじめとする医療系の学術誌として育っていくこと、とくに本学の目的に掲げている地域共生社会の実現に向けて、研究の側面からも寄与できるような存在となることを願ってやみません。